

[総合大学のスケール・多様性]と[大学院大学の専門性・特殊性]を生かした“知の創出”機能の強化 教育・研究機能の強化

★相乗効果により強みを更に強化

異質間融合

強み・優位な研究領域を相乗的に組み合わせ、「先進融合学術共同専攻(仮称)」を創設(平成30年度予定)

例えば…

革新的バイオ・ メディカル分野	(金)栄養・代謝領域 (J)次世代バイオデバイス領域 (J)高度人間情報処理領域 等	未来社会 創造分野	(金)機能性超分子マテリアル領域 (金)再生可能エネルギー領域 (J)創造的デザイン領域 等
--------------------	--	--------------	--

- 幅広いバックグラウンドを持つ学生に対し、これまでの研究領域を礎としながら、**フィールド実践を重視した分野・領域融合型**の教育研究を展開
⇒社会の要請である新たな研究領域の開拓や、高い付加価値を生み出せる新しいタイプの“**科学技術イノベーション人材**”を育成する
- 共同専攻の創設により、教育・研究領域の“壁”を打破し、“国際頭脳循環のハブ拠点化”を目指す

★それぞれ有する課題を補完



学士～大学院課程はいわゆる煙突型(一貫型)

…異分野融合的、学際的な教育研究を展開する仕組みの
強化が課題



世界・全国から学生が参集

…地域企業でのインターンシップ等、**地域の足場の形成が課題**

これらにより

- 社会が求める“**新たな融合型大学院教育モデル**”を提唱できる(産業界と連携した「知のプロフェッショナル」の育成)
同時に、理工系人材育成の主流である「学士～大学院課程6(9)年間の一貫型教育」**(いわゆる煙突型)によらない教育モデル**を提唱できる
- 新たに創出されたイノベーションを求め優秀な人材が石川に集まると同時に、石川から世界に人材を輩出することによって、**新たな研究領域を創出・開拓し、国際頭脳循環のハブ拠点**となる

組織運営等のシステム改革

- 2大学協働の「**コーディネーター(仮称)**」を創設、双方の職員を配置し、「国内外のインターンシップ・研究留学支援」「企業・自治体との連絡・調整」を実施
- 事務連携協力体制を構築するとともに、**積極的な人事交流を推進**し、組織の活性化に資する組織運営改革を推進
⇒本事業を契機に「**事務局調整連絡会議(仮称)**」を設置し、将来的な事務局組織の一元化も視野に、更なる連携協力体制構築を検討

同地内連携

有機的な大学間連携・産学連携による機能強化

隣接する2大学という地の利を最大限に生かし、

- ・ラボローテーション等の有機的連携により、**あらゆる教育研究の「場」と「機会」の共有**を実質化する
- ・地域課題を共有するとともに、企業(産業界)・自治体等とも連携し、課題解決に向けた共同研究や共同セッション等を積極的に開催する

これらにより

- 将来的な事務組織一元化も視野に、**2大学の組織の活性化に資する積極的な組織運営改革を実現する**
- 地域課題を世界的視野で捉えることが可能となり、大学発の実践的課題解決策の提案ができる
- 本共同専攻の研究を基盤とした**イノベーションの創出・新たな産業の創出が可能**となる